

第6分野 個性を活かし持続可能な地域づくりを推進するまち

基本方針1

**歴史と伝統を守り 互いに支え合う
住民主体の地域づくりを進めます**

～水とおどりと心のふるさと郡上八幡～

事業年度	令和6年度
責任部長	八幡振興統括
責任課長	政策推進課長
責任課	政策推進課
主管課・関係課	政策推進課、都市住宅課、観光課、社会教育課、観光課、総務課、学校教育課、企画課、農務水産課、林務課、商工課、高齢福祉課、児童家庭課

■ 施策の概要

施策1: 魅力的で安全なまちづくり

【主管課:建設部 都市住宅課】

八幡地域では、郡上おどりや各神社の神楽などの伝統的な文化が受け継がれています。しかしながら、少子高齢化やライフスタイルの多様化に加え、住民の意識の変化や組織の弱体化がみられる地区もあり、その継承が困難となっています。また、城下町である中心市街地は、無電柱化等景観に配慮したまちづくりを行ってまいりましたが、歴史的な町並みの中に空き家が増加し、結果として空き地化につながることで、城下町の景観が損なわれはじめています。加えて、幅員の狭い道路が多く、観光シーズンには交通混雑が発生し、混雑解消や安全性の向上が求められています。現代まで継承されてきた町並みや景観・文化を未来に引き継いでいくために、安全性の確保、保全や担い手づくりの取り組みを行ってまいります。

施策2: 地域資源を活かした産業振興

【主管課:商工観光部 観光課】

新型コロナウイルス感染症の拡大により、これまで訪れていた外国人観光客や団体客が著しく減少し、観光関連産業に大きな影響が出ています。これらの社会環境の変化に柔軟に対応するため、近隣から観光客を誘致するマイクロツーリズムへの転換と、農業体験等自然を活かしたグリーンツーリズムを推進することで来訪者の増加を図る必要があります。このほか、木材等を活用した伝統的な産業や地域資源を活かした新たな商品開発を支援することで雇用の場の創出や生産力の向上を図るなど、地域経済の活性化を目指します。

施策3: 住民主体による持続可能な地域づくり

【主管課:市長公室 政策推進課】

これまで八幡地域では、自治会や公民館、地域づくり団体等が、それぞれ地域をより良くするための取り組みを行ってまいりましたが、いずれの組織も高齢化や人材不足、活動の停滞などの課題を抱えています。このため、分散している様々な生活サービスや地域活動の場をつなぐ仕組みづくりが必要です。今後も住み慣れた地域で暮らし続けるために、既存の団体が連携し、役割分担を明確にしながらか地域課題の解決に向けた組織の設立を目指します。また、人口減少が進む中で、地域を維持するために、住民同士の支え合い活動や世代間交流に若い世代の参画を促すなど、地域の担い手確保に努めます。

■ 基本方針に係る総括評価(所見)

【責任部長:八幡振興統括】

郡上八幡の歴史・文化と生かした住民主体の地域づくり、安心安全で活力あるまちづくりを推進する中で、「魅力的で安全なまちづくり」については、空き家対策、歴史的建物の保存、郡上おどりの担い手育成、交通混雑緩和に係る諸事業において一定の成果を上げたと考える。今後も、伝統文化の継承と城下町景観保全、交通問題の解消等について、継続的な対策の実践と、より効果的な方策の検討を進めて行く。「地域資源を活かした産業振興」では、外国人誘客の促進及び受入れ体制の整備、デジタルマーケティングの活用などによる観光客誘致において成果が見られる。今後もSNSや観光サイトを活用した地域の魅力の発信によるプロモーション、マーケティングに一層の注力を行うとともに、八幡地域が有する地域資源を活用しながら、来訪者にとって魅力的で質の高いプログラムを提供し、満足度の向上、リピーターの確保を促進する。「住民主体による持続可能な地域づくり」では、住民主体の地域づくりは進んでいる一方で、地区により活動や意識に差が見られる状況である。地域協議会による地域づくり活動の促進に加えて、八幡地域が一体となった地域運営に対する意識醸成や次世代の担い手の育成が必要となっている。

■施策ごとの評価

施策1:魅力的で安全なまちづくり

【主管課:建設部 都市住宅課】

評価

B

目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。

▶後期基本計画策定時の「現状と課題」

- ・少子高齢化による伝統文化等の担い手不足
- ・空き家等の増加による歴史的な町並みの維持が困難
- ・狭あい道路の交通上の安全性の向上が必要

◎後期基本計画策定時の「目指す姿」

安全な交通環境が整い、空き家等が管理・活用されることで歴史的な町並みが維持され、景観や伝統的な文化が担い手により継承されているまち

I. 施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)

【成果】

- ・郡上おどりの担い手を育成するため、小さいころから民謡に親しみ、その技術を習得できるように、郡上おどり保存会・西川流の講師を派遣して、八幡小学校の3、4年生を対象に民謡学習の機会を8回提供した。また、課外クラブで学ぶ意欲の高い児童を対象に5回の講師派遣(郡上八幡おはやしクラブ)を行った。
- ・郡上八幡北町伝統的建造物群保存地区において、特定物件は123棟である。そのうち39件の約3割で修理が実施され、順調に保存が行われている。
- ・岐阜県重要無形民俗文化財「岸劔神社の大神楽」、「日吉神社大神楽」、「小野八幡神社祭礼」について、祭礼等の実施や保存伝承活動を対象に補助を実施した。
- ・八幡町市街地の交通混雑解消のため、駐車場案内看板の設置を実施した。
- ・空き家対策として「チームまちや(郡上八幡産業公社)」による空き家改修とサブリースを実施。令和6年度においては空き家改修2件実施、延べ活用物件は46件となった。令和6年度末時点で76人が入居し、町並み保存の一助となっている。

【課題】

- ・高齢化、人口減少など社会環境の変化による地区会などの組織の弱体化、それに伴う意識の変化により、郡上おどりや神楽などの伝統的文化の保存、継承が困難となっている。

II. 今後の方向性と具体的な展開

- ・郡上おどりの担い手確保、技能の保存、継承をしていくため、郡上おどり保存会活用計画に沿って、指導体制の整備や発表機会の確保などの取り組みを進めていく。
- ・大規模駐車場への誘導看板を設置したことによる駐車場利用状況を過去と比較しながら、次の対策を検討する。
- ・空き家バンク制度の運用により、売買・賃貸希望所有者と購入・貸借希望者のマッチングなどの空き家相談を行うことで利活用促進を図り、空き家及び特定空家の発生を抑制する。
- ・空き家利活用推進事業は予定していた10年間の事業期間が満了となるため、一般社団法人八幡まちづくり会議に事業移管を行い、物件開発、借家管理を実施していく。

評価

B

目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。

▶後期基本計画策定時の「現状と課題」

- ・新型コロナウイルス感染症による外国人観光客と団体客の減少
- ・地域資源の有効な活用体制が必要

◎後期基本計画策定時の「目指す姿」

地域資源の有効な活用と社会変化に対応した観光関連産業の発展により地域が活性化しているまち

I. 施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)

【成果】

- ・外国人誘客協議会での広域的なプロモーションの実施及び誘客促進、個人旅行者を主なターゲットとする英語ガイド育成による受け入れ環境を整備した。
- ・受講生16名に対しフォローアップ研修5回を実施。R6年4月に修了生を中心として郡上ガイド協会を設立した。また、ガイドツアーを造成して、郡上市観光連盟のWEBサイトにて販売を開始した。
- ・豪州ではシドニー、メルボルンで観光展に出展してPRを実施するとともに、700名のメールアドレスを入手した。また、豪州の旅行会社にセールスを行い、教育旅行の問合せ1件、個人旅行の予約(催行済)1件があった。
- ・郡上市観光連盟によるアウトドア予約サイト「郡上ノアソブ」を活用し、地域資源を活かしたグリーンツーリズム等の商品造成支援や観光協会と連携した誘客促進のプロモーション活動を実施した。
- ・指定管理施設の適正な維持管理を目的とした定期的点検・モニタリング等を実施した。

【課題】

- ・広域連携による観光ルートの魅力周知のためのPR手法、FITへの効果的なアプローチ手法がわからない。
- ・広域を周遊するためのアクセスが限られている。
- ・アジアエリアの訪日旅行者の復活及び旅行単価が高い欧米豪エリアの新規開拓が不十分。
- ・アジアエリアでは、特にタイ王国の延べ宿泊者数の落ち込みが著しい。
- ・アウトドア予約サイトへの商品登録推進。
- ・予約へつなげるためのPR、団体向けコンテンツの造成が不足している。
- ・WEB会員の来訪状況把握できるシステムの利用が少ない。
- ・これまで蓄積してきたプロモーションノウハウなどの活用。(市内事業者への提案が不十分)

II. 今後の方向性と具体的な展開

- ・訪日外国人観光客の誘致に係る商品造成及び旅行会社、メディアや消費者に向けたプロモーションの実施。インバウンド対応した受入体制の整備・強化を促進する。
- ・R6年度に立ち上げた郡上ガイド協会を活用した高付加価値(高い満足度・消費額)な旅行商品の造成・販売を促進する。
- ・スノーリゾート形成計画による整備を踏まえた豪州への誘客営業を実施する。
- ・飛騨高山、白川郷との連携により周遊観光を促進させる。周遊観光の促進に向けて、相互のアクセス改善に取り組む。
- ・観光誘客促進事業では、プロモーション力強化のためレップ等を活用した現地旅行会社、メディア等への効果的なPRや営業を行い、商品造成、誘客促進に繋げていくとともに、英語ガイドを活用した受け入れ体制の強化と郡上八幡駅から市街地間の観光案内等により長良川鉄道とも連携した事業を展開する。
- ・デジタルマーケティングによる効果検証ができる仕組みの構築・実行を進めていく。
- ・デジタルマーケティング事業で蓄積してきたデータを、市内事業者が活用できるプラットフォームの構築を進めていく。
- ・アウトドア予約システムを活用するための商品造成及び予約促進PRを行う。

施策3:住民主体による持続可能な地域づくり

【主管課:市長公室 政策推進課】

評価**B****目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。****▶後期基本計画策定時の「現状と課題」**

- ・高齢化や人材不足による各組織の活動の停滞
- ・若い世代の地域活動への参加減少

◎後期基本計画策定時の「目指す姿」

生活サービスや地域活動の場をつなぐ地域運営組織が設立され、地域住民が主体的に地域づくり活動に参画し、互いに支え合うまち

I. 施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)**【成果】**

- ・町家アイデアレ開催事業、八幡観光協会の八幡町市街地の観光振興とその推進体制に関する調査研究事業へ地域振興事業補助金を交付した。
- ・大垣共立銀行八幡支店の移転に伴う跡地の利活用について、関係団体等から意見聴取を行い、利活用に係る方策や今後の事業構築に向けた課題等を整理し、基礎資料とするため、ヒアリング調査の業務委託を行った。
- ・八幡地域協議会では、課題検討部会を設置し、地域課題と解決策についての検討を開始。「買い物支援」をテーマに八幡地域内の高齢者を対象としたアンケート調査を実施した。
- ・八幡地域協議会地区協議会の事業等の実施により、地域の課題は地域で考え対応する機運が高まりつつある。一部地区では、「小さな拠点とネットワーク」の考えに基づく取り組みが進めており、持続可能な地域運営を目指して活動している。
- ・八幡地域協議会内で、唯一団体未設置地区であった小野地区に新たに小野まちづくり協議会が設立され、活動を開始した。

【課題】

- ・地区により活動意欲や内容に温度差があるため、地域課題に対する自発的な活動を促していくとともに、地域を担う人材の育成・確保が必要である。また、八幡地域全体の課題に対し連携した取り組みができるよう、明確な課題や目標の設定が必要となっている。

II. 今後の方向性と具体的な展開

- ・地域協議会を中心に地域内の各団体や住民の主体的な活動を推進するとともに、情報共有、相互支援の体制を整え、地域運営組織の設立等も視野に、住民が主体となった持続可能な地域運営の仕組みの確立を目指す。

■後期基本計画策定後新たに生じた課題等**■関連する個別計画の有無**

有

八幡地域振興計画